

# 令和元年7月開催 第3回福部地域振興会議議事概要

日 時 令和元年7月24日（水）9：00～10：35  
会 場 福部町コミュニティセンター2階研修室  
出席委員 南部敏、上山弘子、坪内悟、宇山英俊、小谷孝文、岸本正枝、濱田香、西尾祥幸  
岩崎幸子、谷岡陽一、加藤美幸、中川玄洋（順不同敬称略）  
事務局 平戸支所長、大島副支所長兼地域振興課長、森産業建設課長、湯谷市民福祉課長、  
河本地域振興課課長補佐

## 1 開会

## 2 議題

### (1) 福部町まちづくり構想実施計画について（資料1）

前回の会議の指摘部分を修正した後、市役所の関係部署や関係団体へ意見聴取を行った。主な意見を紹介。

#### 【意見】

委員A：福部の課題が何で、どういうものがどの数値によって何が足りてないのか見えてこない、各施策が妥当なのか判断しにくい。どういうデータを集めるのかは相談に乗るので、今後データ収集をして欲しい。現状、課題、目指す方向が明確になっていないと優先順位も考えにくい。

また、空き家調査の実施主体はなぜ区長会からまち協に変わったのか。

事務局：空き家調査は市が市内の地域団体に委託業務として行っています。任意団体でなければ委託ができないため、まち協を事業主体として考えています。

基本計画や実施計画の策定については、データ等を根拠に作成していません。思い描くまちの姿にするために、考えられる方法を実施計画に盛り込んでいます。

支所長：平成26年頃に区長会を中心にインターチェンジ（以下、ICという。）の設置を要望し、その際県からどういったまちづくりをしたいのか？と言われたところからまちづくりが始まりました。まず構想を作ったが、IC設置を中心とした内容ではなく、IC設置を起爆剤としたまちづくり構想を鳥取大学の山下教授とともに作成しました。その後、構想を基に基本計画を作ったが、皆さんの意見を聞きながら4つの柱を置きました。一番目はIC設置、二番目は中心部の活性化、三番目は福部町内の移動手段の確保、最後は防災で塩見川の改修を盛り込みました。数値がどうこうではなく、ICを使ったまちづくりとして何が必要なのかを皆さんの意見を聞きながら進めてきました。

委員A：ICが設置できないと他の事業も進まないではいけないので、IC設置抜きでも計画を進めていかないといけない。バス路線を整備しても利用するとは限らない。生活が困窮していて定期代が出せない家庭もある。毎年何らかの調査をし、裏付けをとるべき。

会 長：元気塾の事業について駅前地区と話し合いをしたが、その状況を説明してください。

事務局：7月7日に駅前地区役員、元気塾の藤原氏、支所で駅前地区を主体とした福部駅を活用した活性化に向けたワークショップの開催の可能性について話し合いの場を設けました。様々な意見があったが、現時点では困難という結果になりました。現在、代替え案として「福部サロン」の実施を検討しており、内容は講義、ミニコンサート、トークタイムで、参考として岩倉で実施したチラシを添付しています。

委員B：空き家対策として2つの事業が計画されているが、調査はまち協で、利活用は新たな組織となっている。空き家の調査をまち協が行うのは、まち協の本来の役割ではないし、動き

づらい。新たなNPO法人を立ち上げて実施した方が良いのでは？

事務局：それがベストだとは思いますが、NPOの立ち上げにも時間がかかります。まずはまち協が受託して調査を進め、NPOが立ち上がった後に業務を引き継ぐ方向で考えています。

会長：いつからまち協が実施する方向になったのか？空き家の調査なら、地域に精通した区長が行った方が良いのでは？。

支所長：市が行っている移住定住空き家運営業務を受託するには、任意団体でなければならないため、現時点ではまち協で実施してもらう方向で、まち協の事務局に話をしているところです。

委員C：らっきょうの自動販売機のことですが、冷蔵機能なしは50～60万円、冷蔵機能ありは100万円するが、財源確保ができていない。らっきょうを売ることは困っていないが、らっきょうの付加価値を上げるために、自販機の設置が起爆剤となればと思い、その方法の一つとして提案した。県の食のみやこの補助金活用も考えたが、コンセプト作りなどが面倒。設置場所は砂丘やジオパークセンターを考えている。

委員D：既存の自販機の一部を借りて、プラスチック容器に入れたラッキョウを販売する方法もある。それなら自ら自販機を購入する必要もなく、経費も抑えられる。

委員C：らっきょうを売るのが目的ではなく、らっきょうの自動販売機を世界初で作ったというインパクトが欲しい。

委員D：それなら、借りた自販機をラッピングさせてもらえばいいのでは？または、自販機の下段すべてをらっきょうコーナーにするなど。

委員C：ランニングコストは、冷蔵機能なしが月650円、冷蔵機能ありは2万円程度である。そもそも、羽田空港に各地の自販機が設置されており、それをやりたかったが、1台120万円と高額である。

委員D：空き家のことだが、智頭町は森のようちえんを売りにして移住者を増やしている。福部町も未来学園を売りにして呼び込むべき。

委員A：振興会議の調査費用として、数十万円単位でいいので毎年予算計上すべき。

事務局：実施計画の内、今年度地域振興会議で取り組む事業が3つある。道の駅「きなんせ岩美」「西いなば気楽里」の視察時期はいつがいいですか？

委員D：なぜ道の駅の視察をするのか？

支所長：福部に道の駅または類似施設を作る参考とするために視察を行います。

事務局：見るだけでなく、来場者数の推移などヒアリングも行う予定です。

委員E：道の駅もいいが、福部駅の活性化に取り組むなら駅（鉄道）の視察の方がよいのではないか。

支所長：来年度は2年に1度の本格的な視察を行うので、視察先を検討する際に参考にさせていただきます。

委員C：島根県の由志園では、若者やリタイアした農家に協力してもらい朝鮮人参を作り、地域振興を行っている。

会長：今年の道の駅の視察は、時期は10月とする。

支所長：8月の地域振興会議で道の駅の視察内容を協議させていただきます。

委員D：山口県周南市の道の駅「ソレーネ」は地域の拠点機能や、老人の検診や、野菜販売、ヤマト運輸配送も行っている。販売に特化した道の駅ではなく、まちづくりにも取り組んでいる道の駅の方が良いと思う。

会長：今年度の事業の内、2国府地域振興会議と新IC設置に関する意見交換は記載のとおりです。3の福部駅の活性化について、とっとりふるさと元気塾と連携し事業を実施する。また必要に応じてJRとの意見交換を行うについて、意見はありますか？

委員F：代替え案の福部サロンは駅前が行うのではなく、福部町全体で取り組むのか？

事務局：そうです。

委員 G：駅前地区で7月7日に10名程度集まって話をしたが、福部駅の活性化となると駅前地区が中心となるとは言いながらも、福部町全体で関わってもらい、さまざまな意見を出してもらいたい。

会長：駅前地区に全て任せるのは難しいようなので、地域振興会議で進めていきたい。（異議なし）

(2) 福部町コミュニティセンターの跡地利用について（資料2）

事務局より福部町コミュニティセンターの跡地利用に関する意見募集について説明。

委員 H：武道館は壊さないのか？

事務局：現時点、支所の倉庫として使用しているので壊さない予定です。

委員 D：コミュニティセンター、体育館の解体に合わせ武道館も解体して跡地を有効活用してはどうか。

支所長：現時点で、武道館は取り壊し計画に入っていないが、武道館に保管している物品等の整理も含めて検討させていただきます。

(3) 「新市域振興ビジョン」推進計画進捗チェック状況（資料3）

事務局：「新市域振興ビジョン」のH30年度実績、R1年度の計画概要を説明。

会長：塩見川の改修が、30年近くかかると聞いているが、そんなに待てない。計画はどうなっているのか？

支所長：秋には計画ができると聞いているので、県による説明会が行われる予定です。

### 3 その他

(1) 支所の耐震化工事について（資料4）

事務局：支所の耐震化工事の工期延期について説明。前回の会議では11月末までの工期になりそうと説明しましたが、資材の入荷が早まったため、完成は10月31日に正式決定しました。

(2) 福部中学校前バス停の名称変更について（資料なし）

事務局：現在の「福部中学校前」という名称のバス停を、10月から「福部未来学園前」に変更します。